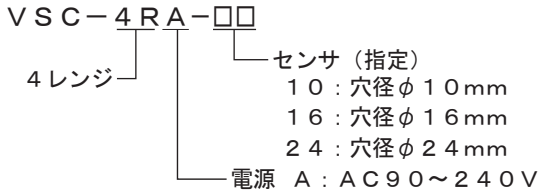


雷サージカウンタ

VSC-4RA-□□

形式



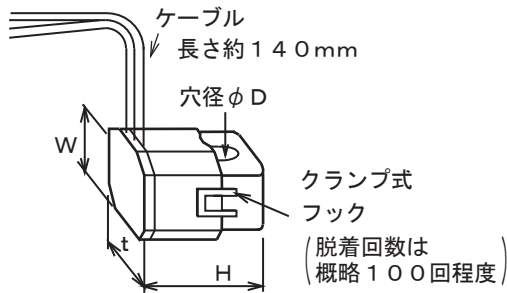
主な機能と特長

- 検出電流は現場で切換え可能
レンジ選択 (10A/20A/50A/100A)
- サージセンサは取付けが簡単なクランプ式
- デジタル表示が大きく見やすい
- 手動リセット付きで操作が簡単
- DINレール取付け可能
- 停電後の計数可能 (約20回以上)
(但し、充電状況によります。)

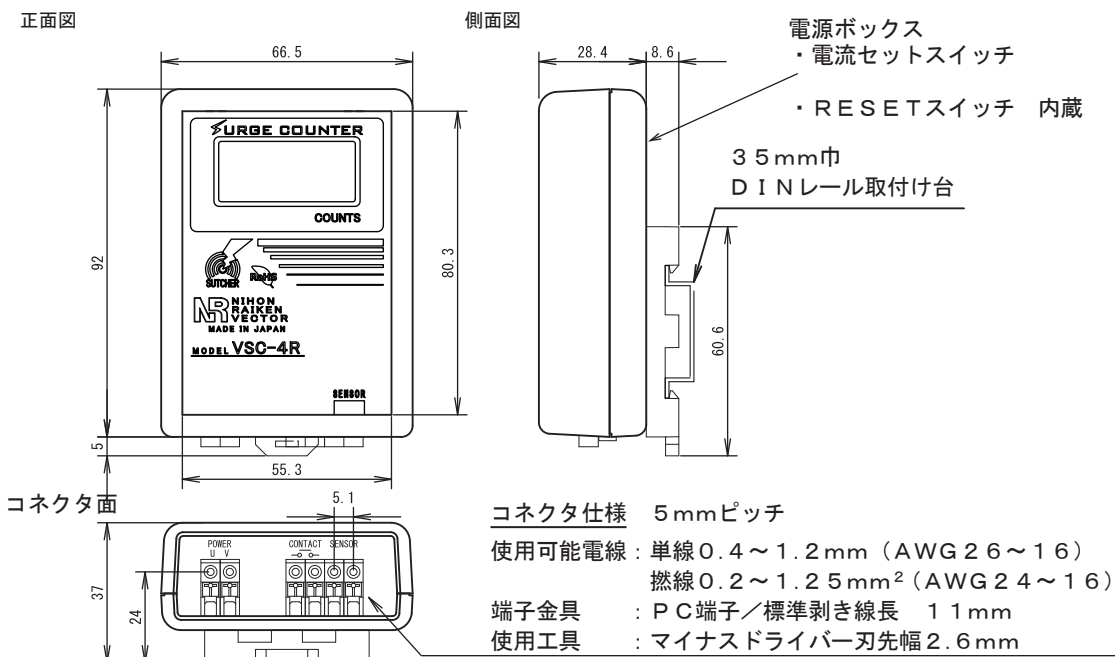
付属のサージセンサ寸法図 (単位: mm)

MODEL

VSCT-10	: 穴径φ10	28W×42H×28t
VSCT-16	: 穴径φ16	31W×47H×32t
VSCT-24	: 穴径φ24	34W×65H×49t



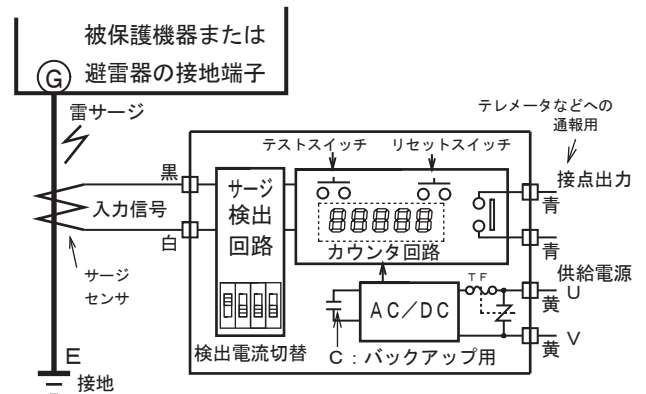
本体外形寸法図 (単位: mm)



仕様

- 検出電流: 4レンジ スイッチ切替式
10A/20A/50A/100A (インパルス8/20μs)
- 表示方式: 7セグメントLCD
- 桁数: 5桁 (文字高さ14mm)
- 使用温度範囲: -10~+60°C 但し氷結しないこと
- 使用湿度範囲: 35~85%RH 但し結露しないこと
- 寸法: W66.5×H37×D97mm
- 重量: 約122g (サージセンサは含まず)
- ケース外装: ABS樹脂 (ブラック)
- 電源: AC90~240V 約1.2W以下
充電 (約20分後) 約0.6W以下
- 接点出力: 定格負荷 AC125V 0.3A/DC30V 1A (無電圧) 接点の最大値 AC125V DC60V
ON時間: 設定範囲50~500ms (出荷時250ms±2%)
- 規格: R o H S 指令適合

端子接続図



⚠ 避雷針の接地線には使用しないでください。

本器を安全に正しく使用していただくため、事前に下記の事項をご確認ください。

■ お願い

- ① センサの端子には指定以外の部品を接続しないでください。
- ② 取り付け時の注意
 - ・ 耐水性、耐油性では有りません。水気や油気をさけてください。
 - ・ 爆発性ガス、引火性ガスのあるところでは使用しないでください。
 - ・ 修理の際は販売店を通じて製造元に返送してください。

⚠ 避雷針のアースには使用しないでください。

■ 正しい使い方

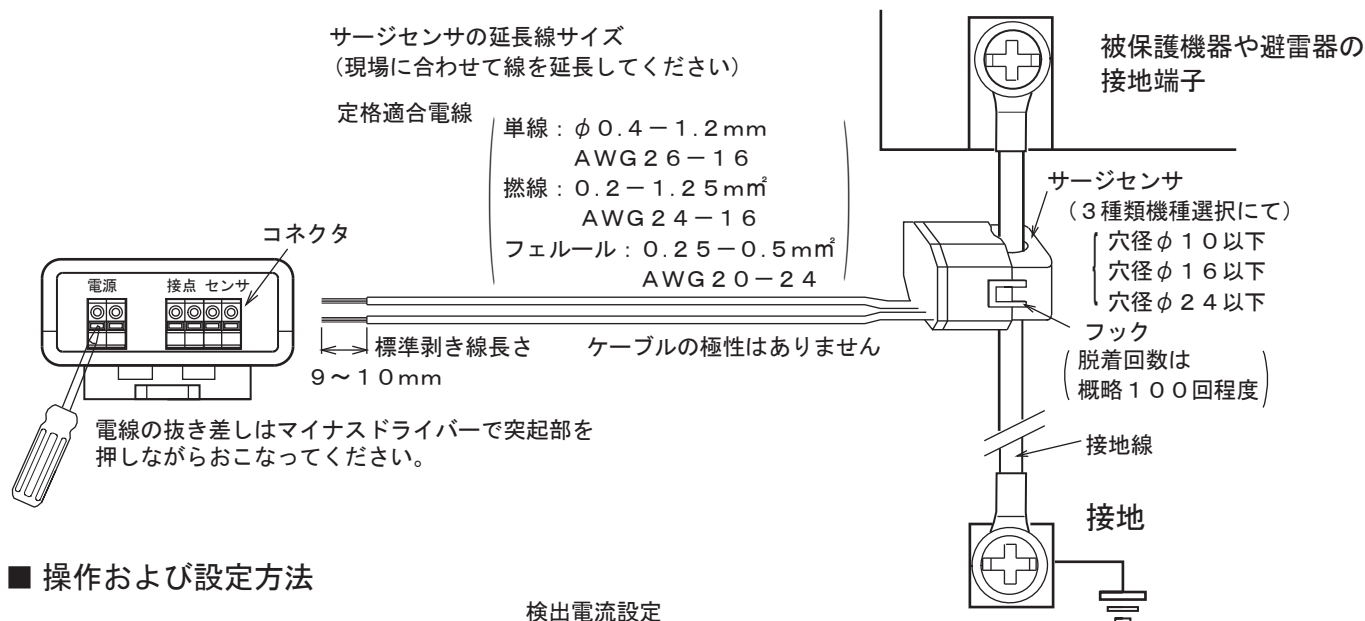
① 外部供給電源式 VSC-4RA / 4RD の場合

- ・ 配線作業は必ず元電源を OFF にて作業をおこなってください。— 感電やショート恐れがあります。
- ・ 直流式は+極-極を確認してください。— 端子の赤色が+極、黒色が-極です。
- ・ 交流式は極性の指定はありません。— 端子の黄色が交流用です。
- ・ 仕様以内の電圧範囲であることを確認してください。
- ・ 配線の抜け落ちにご注意願います。— 配線後少し引っ張って確認をおこなってください。

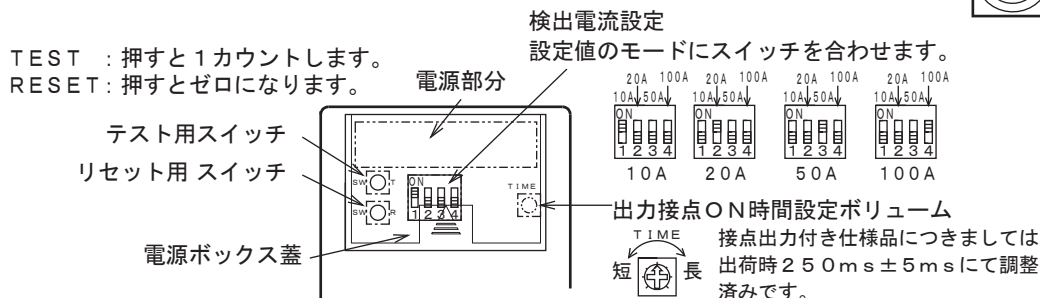
② 下記の環境では使用しないでください。

- ・ 温度変化の激しい場所や湿度が高く、結露が生じる恐れのある場所。
- ・ 振動の激しい場所
- ・ 高圧電源付近や発電機、インバータなど強電磁界の多い場所。
- ・ 換気扇や蛍光灯のスイッチなどのノイズ源を避けて配線してください。

■ 取付方法および端子配列



■ 操作および設定方法

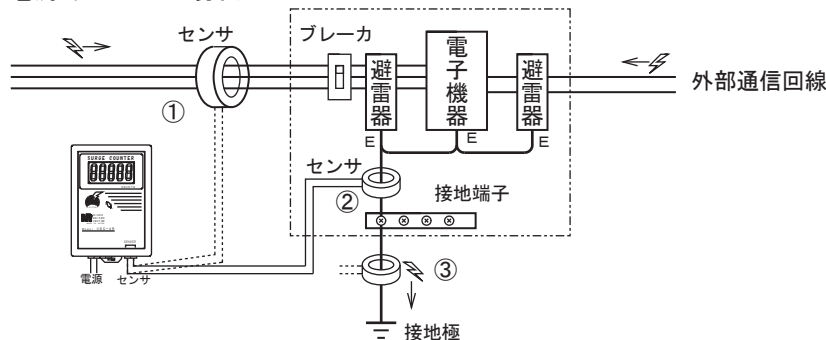


■ 品質保証

保証期間：ご購入後1年間の保証と致します。 保証期間：ご購入後1年間の保証と致します。
保証条件：万一、当方の責任による不測の故障等が生じた場合、保証期間内において無償修理致します。
但し、分解されたものにつきましては保障致しかねます。

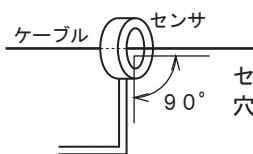
■ 設置方法

・電源ラインの場合



- ① 電源ラインは全線をクランプしてください。（常に位相がゼロであること）
- ② 避雷器の通過確認は接地端子のところでクランプしてください。（推奨）
- ③ 盤全体と接地間の場合は、接地端子以降でクランプしてください。
盤全体が建物の鉄骨などに取り付けられている場合は、計数はできません。
また、避雷針、A種B種D種C種接地が同電位化されている場合は、
ノイズの影響により正しい計数ができないことがあります。

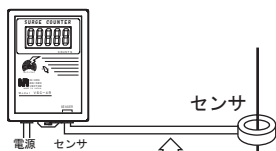
■ センサのつけ方



センサの穴に対して直角が望ましい。
穴径に対してケーブルが細い場合、ビニールテープやインシュロックなどで固定してください。

■ 設置に関する注意

近傍にノイズの発生源がある場合正しく計数しないことがあります。



延長線は、ツイストペア線やシールド線にする方法が、ノイズ対策として有効な方法です。

- ・近傍にモーターなどある場合、常時ノイズが生じています。
- ・換気扇などある場合、スイッチのON/OFFでノイズが発生します。
- ・パネル内用の蛍光灯のON/OFF時ノイズが発生します。
- ・マグネットリレーなど大電流の入り切り際に発生するノイズも存在しますので、

いずれも内部雷と称するもので、検出ラインを通過する電流であれば防ぎ様がありませんが、電波によるカウントであれば、シールド線を使用するか、センサの2本のケーブルをツイスト（捻じる）することで多少軽減できることもあります。
その他、設定値を大きい方に切り替える方法もあります。